

科目名称	成人看護学概論	学年学期	単位数	時間数
		1学年後期	1	30
担当教員	福田栄江、村上裕紀	授業に関わる実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有（看護師） <input type="checkbox"/> 無	

【1】 授業概要

成人期は身体的・精神的には安定している時期であるが、社会的には役割が大きく変化し、ストレスによる健康障害を起こし易い。また、生活習慣病を発症し易い時期であり、学習対象となる学生自身もその要因をもっている。そこで、看護の対象のライフサイクルに沿って区分した成人期にある対象と家族の特徴を理解し、成人期にある人への看護のあり方や、健康の保持・増進に必要な援助を学ぶ。

【2】 学習目標

1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。
2. 健康問題を解決するために活用できる中範囲理論を理解し、連続体のどこかにある健康のレベルに応じた看護方法を説明できる。
3. 成人期における健康問題、保健活動の必要性を学び、健康の保持増進を図る援助方法が理解できる。

【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	成人と生活	講義
2	成人の特徴と健康問題①	講義
3	成人の特徴と健康問題②	講義
4	健康レベルに応じた健康①	講義
5	健康レベルに応じた健康②	講義
6	健康レベルに応じた健康③	講義
7	成人教育(アンドラゴジー)	講義
8	健康問題のアセスメント	演習
9	ストレス・コーピング理論、危機理論	講義
10	リフレクション、自己効力感・保健信念モデル	講義
11	成人期の健康問題と解決方法	グループワーク
12		
13	症状マネジメントの統合的アプローチ	講義
14	グループワーク発表会	発表
15	筆記試験・まとめ	

【5】 評価方法

科目評価は、筆記試験、グループワーク、受講態度等で総合的に評価する。

【6】 教科書

小松浩子: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(1) 成人看護学総論(第16版) 医学書院 2025 (電子版)
 野川道子: 看護実践に活かす中範囲理論(第3版) メヂカルフレンド社 2025

【7】 参考書

厚生労働統計協会: 国民衛生の動向・厚生指針 増刊・第68巻第9号 厚生労働統計協会 2025

【8】 受講生へのメッセージ

授業前には、シラバスに明記している各回のテキストを事前学習して授業に臨みましょう。